

令和4年1月1日より適用

川崎医療福祉学会誌 投稿規程 (和文誌, 英文誌共通)

1. 投稿内容

川崎医療福祉学会誌（以下「本誌」という。）への投稿原稿は、本規程及び執筆規程に沿って作成された医療福祉及びその関連領域の学術的発展に寄与する論文とし、他誌に未発表のものに限る。

2. 投稿資格

本誌への投稿は、原則として川崎医療福祉学会会員に限る。共著者も論文掲載時には会員でなければならない。

3. 投稿承諾書

投稿に際しては、共著者を含む著者全員がその内容に責任を持つことを明示した投稿承諾書を添付する。

4. チェックリスト

著者は、執筆規程に沿って作成された原稿であることをチェックリストで確認し添付する。

5. 投稿の区分

投稿論文の区分（原稿の種類）として、以下を設ける。

総説（Review article）：一つのテーマに関連する多くの研究論文の総括、評価、解説等。

論説（Essay）：各分野における活動、政策、動向などについての提案、提言。

原著（Original paper）：新知見又は創意を含むもの。

短報（Short report）：原著と同じ性格であるが、研究完成前あるいは、速報的に書かれたもの。

資料（Material）：調査、統計等に関するもの。

教育・実践研究（Educational and practical research）：教育方法及び実践の提案や取り組みの報告。

症例報告／事例報告（Case report）：学術的ないし実践的に興味深い症例・事例を報告するもの。

6. 倫理的配慮

著者は、所属機関の定める研究倫理規程並びに当該分野における倫理規範に沿って研究を遂行し、必要な倫理的配慮を行った旨を明記して投稿する。

7. 採 否

投稿原稿の採否は、査読者の意見を参考にして、川崎医療福祉学会誌編集委員会で決定する。場合により修正を求めることがある。修正を求められた場合は指示された期日内に修正原稿を提出することとし、特段の理由なくその期限を大きく超過した場合、査読を停止し、不採用とする。

8. 校 正

著者校正は原則として初校のみとする。この際、修正は原則として不適切な字句の訂正や図表のサイズ・挿入位置等の調整のみとし、内容の改変は認めない。

9. 掲載料

掲載料は執筆規程に定める範囲内までは無料とするが、それを超えるものに関しては、その分量に応じて超過料金が著者に請求される。超過料金の金額については別に定める。

10. 別 刷

別刷の料金は著者負担とする。

11. 著作権

本誌に掲載された原稿の著作権は、川崎医療福祉学会に属する。ただし、著者自身が使用する場合は本会の許諾を必要としない。

12. 投稿方法

投稿は原則として学会専用サイト（学会ホームページよりリンク）からの電子投稿に限る。

13. 投稿規程の改正

本規程の改正は、川崎医療福祉学会誌編集委員会の議を経て行う。

川崎医療福祉学会誌（和文誌）執筆規程

（32巻2号より適用）

1. 原稿の書式

原稿は横書きの日本語とし、ワープロソフトを使用し、A4判に1頁あたり1,200字程度（例：35字×34行など）、文字の大きさを10～11ポイント程度として作成したものとする。なお、査読の便を図るため、可能な限り所定のフォーマットを用いて作成すること。

2. 原稿の分量

要約の語数および掲載時の枚数（要約、図表および引用文献等のすべてを含む刷り上がり時の分量）は、下表のとおりとする（刷り上り原稿はA4判で、1頁は見出しや図表がない場合で21字×43行の2段組、約1,800字）。原稿の分量は、オンライン投稿・査読システムに直接入力する。規定の分量を大幅に超えている場合、投稿できない。

投稿区分 (原稿の種類)	要約の語数	刷り上がり時の ページ数
総説	和文400～600字程度、英文100～200語程度	12ページ以内
論説	和文400～600字程度、英文100～200語程度	12ページ以内
原著	和文400～600字程度、英文100～200語程度	12ページ以内
短報	和文200～300字程度、英文50～100語程度	8ページ以内
資料	和文200～600字程度、英文50～200語程度	12ページ以内
教育・実践研究	和文200～600字程度、英文50～200語程度	12ページ以内
症例報告／事例報告	和文200～600字程度、英文50～200語程度	12ページ以内

3. 原稿の構成

原稿は、表紙、和文要約、英文要約、本文（注を含む）、文献、図表、図表一覧より構成する。なお、著者情報等はオンライン投稿・査読システムに直接入力する。原稿とは別に、チェックリスト兼投稿承諾書を添付する。

3.1 著者情報等

著者情報等には、以下の項目を記載する。倫理的配慮や謝辞など著者の特定につながる情報は原稿ではなく、著者情報等に必要に応じて記載する。

(1) 著者名等の表記（和文）

A. 著者名とその所属機関名

所属が2ヵ所以上の場合は、著者名および所属名の各々右肩に番号を割り振ること。

（例）川崎太郎^{*1} 川崎次郎^{*2} 川崎花子^{*2}

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

*2 川崎医療福祉大学 保健看護学部 保健看護学科

B. 代表者の氏名と連絡先

所属機関等の名称と住所、電話番号、メールアドレスを記載する。

（例）川崎太郎

〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

086-462-1111（内線540**），*****@mw.kawasaki-m.ac.jp

(2) 著者名等の表記 (英文)

A. 著者名

全員の氏名を以下の要領で列記する。

(例) Taro KAWASAKI, Jiro KAWASAKI and Hanako KAWASAKI

B. 代表者の氏名と連絡先

(例) Taro KAWASAKI

Department of Social Work, Faculty of Health and Welfare

Kawasaki University of Medical Welfare

288 Matsushima, Kurashiki, 701-0193, Japan

Phone: 086-462-1111 (Ext. 540**), *****@mw.kawasaki-m.ac.jp

3.2 表紙

表紙には以下の項目を順に記載する。

(1) 投稿原稿の区分

総説, 論説, 原著, 短報, 資料, 教育・実践研究, 症例報告/事例報告

(2) 表題 (和文および英文)

英文については, 冠詞と前置詞を除き語頭は大文字で始める。

(英文例) Analysis of Visual Information Processing by Event Related Potential (ERP)

(3) ランニングタイトル (和文で30字以内)

(4) Key words (英語で5つ以内とし, 検査名等以外は小文字で始める)

例) mental hospital, Rorschach test, graphical user interface (GUI)

3.3 和文要約

本規程2に示す分量で, 論文の要約を日本語で記載する。

原則として複数の段落に分けず, 全体として1段落の文章とする。

3.4 英文要約

本規程2に示す分量で, 論文の要約を英語で記載する。

原則として複数のパラグラフに分けず, 全体として1パラグラフの文章とする。

3.5 本文

本文については, 以下の規定に従うものとする。

(1) 文章

本誌は広く医療福祉分野に関係する読者が対象となるので, できるだけ多くの読者が理解できるように, 平易な文章で記述し, 論理的で正確, 簡潔で明瞭な科学論文とする。

(2) 略語

略語は, 広く一般的に使用されているもの以外は使用しない。やむを得ず使用する場合には, 最初に出たところで原語を記載し, その後に括弧をつけて略語を記載する。

(3) 構成

構成は, 緒言, 方法, 結果, 考察, 文献, …等, またはこれに準じる。

(4) 見出し

見出し番号の順は、原則として 1, 2, …, 1.1, 1.2, …, 1.1.1, 1.1.2, … とする。さらに小さい見出しが必要な場合は、原則として (1), (2), …, A, B, …, とする。

(5) 句読点、記号等

句点は全角でピリオド(.), 読点は全角でコンマ(,)とし、括弧やコロンも全角とする。数字や%, =, 不等号(<, >)等の記号は半角とする。また cm 等の単位は記号ではなく、英半角文字で打つ。文中の英語等は、略号等の大文字も含め、すべて半角文字にする。

(6) 注

注は、最初に出たものから順に、右肩付数字で、…†1), …†2) のように示す。文章の切れ目につける場合は、コンマ、ピリオドの直前の右肩に記す。そして最後に文献の前に一括して記載する。

(7) 数式

数式は、できれば日本語「LaTeX」形式で表現する。

3.6 文献

3.6.1 本文中の記載方法

1つの文献につき1つの番号とし、本文に登場した順に通し番号を肩付き数字で…¹⁾, …^{2,3)}, …^{4,6)} のように示す。同一文献が複数回引用される場合、同じ番号を付す。

同一文献の異なる箇所を引用する場合で、それぞれのページ番号を明示したいときは、末尾の「文献」欄（次項3.5.2参照）ではなく、下記の要領により本文の中で記載する。

江草¹⁾は「……」(p.91)と述べている。…江草¹⁾はまた「……」(p.233)とも指摘している。

本文中で著者名を記す場合は、原則として姓のみとし、複数の場合には以下の要領に従う。

著者が2名：2名を「と」でつなぎ連記。 例) 川崎と江草 Kawasaki & Egusa

著者が3名以上：筆頭のみとし他は略記。 例) 川崎ら Kawasaki et al.

3.6.2 「文献」欄の記載方法

本文中に引用した文献資料は、そのすべてを末尾の「文献」欄に一括して掲げる。論文の読者が正確な書誌情報を理解し自らその文献を入手できるようにするため、正確に記載しなくてはならない。記載方法は、原則として以下の<記載例>に従う。「文献」欄のコンマとピリオドは半角とする。

<記載例>

(1) 雑誌論文

著者名：論題名、雑誌名、巻号、頁－頁、発行年。

- ①著者名は10名までなら全員を列記し、コンマでつなぐ。
- ②著者名と論題名の間は全角のコロン。
- ③論題名と発表年の後ろはピリオド、他の区切りはコンマ。
- ④副題は、日本語の場合は全角ダッシュ、外国語の場合はコロンでつなぐ。
- ⑤雑誌名は省略せず正式な表記とし、外国語の雑誌名はイタリック体。
- ⑥巻は通常のフォント(Times New Roman)とし、ボールド体にはしない。
- ⑦1巻が複数の号からなる雑誌では、各号がp.1から始まる場合は号を括弧書きで付記する。
そうでない(頁が通号表記の)場合は、号の記載を省略できる。

- ⑧巻がなく号のみの雑誌では、号を巻の代用として表記する（その際、括弧書きにはしない）。
- ⑨頁は引用箇所ではなく論文の開始頁から最終頁（引用箇所は必要なら本文に記載）。

佐久川肇，本保恭子，末光茂，江草安彦：ブラジルにおける老人に対する意識調査．川崎医療福祉学会誌，2，45-52，1991．

Elkins BH, Pagnotto LD and Smith HL : Concentration adjustment in urinalysis. *American Industrial Hygienist Association Journal*, 35, 559-565, 1974.

【特殊なケースについて、以下のように扱う】

著者が10名を超える（11名以上）：9名まで列記し、その後省略のうえ最後の著者を記載

尾見康博，河合重治，斎藤新之助，桜井克己，菅原光彦，武村幸三，川崎祐信，江草安彦，岡田喜篤，…根ヶ山勝彦：子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究．教育心理学研究，47，40-48，1999．

Kawai N, Kudo E, Saito S, Sakurai K, Sugawara K, Takemura K, Kawasaki S, Egusa Y, Okada K, …Negayama K : Assessing social support: The Social Support Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology*, 44, 127-139, 1983.

印刷中（掲載は決定しているが未刊行）：雑誌名の後にその旨を記載

尾見康博：子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究．教育心理学研究，印刷中．
Sarason IG, Levine HM, Basham RB and Sarason BR : Assessing social support: The Social Support Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology*, in press.

早期公開（冊子体が刊行される前にオンライン上で公開）：雑誌名の後にその旨を記載

尾見康博：子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究．教育心理学研究，早期公開．

Sarason IG : Assessing social support: The Social Support Questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology*, Advance online publication.

オンライン公開のみ（冊子体なし）の雑誌論文でDOIが付与されている：末尾にDOIを記載

Kawai N, Miyata H, Nishimura R and Okanoya K : Shadows alter facial expressions of Noh Masks. *PLoS ONE*, 8, e71389, 2013, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0071389>.

(2) 図書（単著）

著者名：書名．版，発行所，発行地，発行年．

- ①著者名は10名までなら全員を列記し、それぞれコンマでつなぐ。
- ②著者名と書名の間は全角のコロン。
- ③書名と発表年の後ろはピリオド，他の区切りはコンマ。
- ④外国語の書名はイタリック体。
- ⑤副題は，日本語の場合は全角ダッシュ，外国語の場合はコロンでつなぐ。
- ⑥版表示は当該図書の表示に従い（第二版，改訂新版など），初版の場合は省略可。
- ⑦引用箇所の頁は文献欄には記載しない（必要に応じて本文中に記載）。

倉敷太郎：福祉社会の……。川崎出版，東京，1995。

岡田喜篤，末光茂，鈴木康之責任編集：重症心身障害療育マニュアル．第2版，医歯薬出版，東京，2005。

American Psychological Association : *Publication manual of the American Psychological Association*. 6th ed, American Psychological Association, Washington DC, 2010.

ジャン・バニエ著，江草安彦，渡辺和子監訳：愛と性の叫び—心に傷を負った人々からの—。ぶどう社，東京，1989。

(3) 編著書の一部の場合

当該部分の著者名：当該部分の題名、編著者名、書名、版、発行所、発行地、頁－頁、発行年。

- ①著者名、編著者名はそれぞれ10名までなら全員を列記し、コンマでつなぐ。
- ②著者名と当該部分の題名の間は全角のコロン。
- ③当該部分の題名と発表年の後ろはピリオド、他の区切りはコンマ。
- ④外国語の書名（当該部分の題名ではない）はイタリック体。
- ⑤副題は、日本語の場合は全角ダッシュ、外国語の場合はコロンでつなぐ。
- ⑥版表示は当該図書の表示に従い（第二版、改訂新版など）、初版の場合は省略可。
- ⑦頁は引用箇所ではなく当該部分の開始頁から最終頁（引用箇所は必要なら本文に記載）。

森忠繁：人口統計。緒方正名編，現代公衆衛生学，第2版，川崎出版，東京，23-24，1995。

Rosenberg J : Effects of medications on biological levels of industrial chemicals. In Fiserova-Bergerova V and Ogata M eds, *Biological monitoring of exposure to industrial chemicals*, ACGIH, Cincinnati, 159-162, 1990.

(4) インターネット上の情報

当該資料の作成者（著者）名：資料題名、サイト URL、資料公開年。（確認年月日）

- ①冊子体で刊行されているものがある場合は、刊行されているものを優先する。
- ②当該資料の作成者名が不明の場合は、サイト全体の作成者名を記載する。
- ③作成者名と題名の間は全角のコロン。
- ④当該資料の題名と資料公開年の後ろはピリオド、他の区切りはコンマ。
- ⑤外国語の資料題名はイタリック体。
- ⑥資料公開年が不明の場合、著作権表記があれば、原則としてその年を記載する。それも不明であれば、当該資料が公開されたと判断し得るもっとも古い年を、角括弧に入れて記載する。
- ⑦資料公開年とは別に、末尾に「資料をサイト上で確認した年月日」を付記。

厚生労働省：平成23年(2011)患者調査の概況。 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/11/>, 2012. (2015.7.31確認)

World Health Organization : *Global strategy to reduce harmful use of alcohol*.

http://www.who.int/substance_abuse/activities/gsrhua/en/, [2015]. (2015.7.31確認)

3.7 図表

図表については、以下の規定に従うものとする。

(1) 原図

図表の原図は、縮小製版できるように鮮明で完全なものとする。

(2) 番号と挿入箇所

図表は、本文とは別に、1頁に1点ずつ記載し、図1、図2、……、表1、表2、……として、それを挿入する箇所を本文中の欄外（右側）に指定する。

(3) 表題と説明

図表の表題と説明は、別紙「図表一覧」に一括して記載する。その際、各図表の刷り上がり時の大きさをそれぞれ「1ページ」「1/2ページ」「1/4ページ」等の要領で指示し、かつ刷り上がり時の論文原稿に占める図表の総量（何ページ分か）を明記する。

4. 料金

論文掲載には費用を要しない。ただし、刷り上がり時のページ数が本規程の枚数を超過した場合、その分量に応じた超過料金を支払うこと。

別刷の料金は著者負担とする。

上記の料金については内規として別に定めるので、必要に応じて事務局まで問い合わせること。別刷における表紙の有無、カラーページの扱いを含め、希望があれば事務局に相談すること。

〈川崎医療福祉学会誌編集委員会事務局〉

〒701-0193 倉敷市松島 288

川崎医療福祉大学 中央教員秘書室

Tel : 086-464-1009 Fax : 086-464-1109